梅窓院通信『青山』
発行／梅窓院
編集／青山文化村
発行日／平成12年6月1日
発行人／中島 真成
住所／〒107-0062 東京都港区南青山2-26-38
電話／03-3404-8447
FAX／03-3404-8107
http://www.baisouin.or.jp/

青山 AOYAMA

創刊号
No.1
2000/06/01

題字／浄土門主知恩院86世心誉

創刊に寄せて

梅窓院第25世
中島真成

皆さん、こんにちは。お手元に梅窓院通信『青山』創刊号をお届け致します。

記念すべき創刊号の最初の挨拶は、やはり創刊への想いにさせていただきます。それは檀信徒の皆さんとお寺との距離をなくしたい、ということです。言い換えれば皆さんがこのお寺を「自分のお寺」として気軽に来ていただけるようになることです。

私が預かっているこの梅窓院は都心の中では大きなお寺の一つです。今、このお寺は二千軒近くの檀信徒さんによって支えられていますが、一口に二千と言うものの大変多く、お顔とお名前を一致させていただくことが難しい数字なのです。私がこう思っているのですから、きっとこうした困惑は知らず知らずのうちに、皆さんに伝わっているに違いありません。

とはいえお一人お一人、ご家族まで含めてお会いすることもできません。そこでこの『青山』の登場です。私と同じ悩みを抱えるお坊さんやスタッフも含め、皆さんとの窓口をもっと増やしていこうというのが、この『青山』創刊にあたっての私たちの想いです。

読んでいただける記事づくりを目標にするこの『青山』。お寺からの情報はもちろん、皆さんからのお便りやご意見欄など双方向の通信にしたいと思っています。

今までにないこのホットな梅窓院通信が皆さんとお寺との距離を少しでも短くする役目を果たしてくれるはずです。

最後になってしまいましたが、護寺・管理費の御礼を申し上げさせていただきます。明細については同封の報告書をご覧下さいますようお願い申し上げます。

合掌

境内散策

本堂（旧講堂）

大正十四年建立のこの和洋折衷様式の建物は、梅窓院のシンボル、というより青山の名物と言える建築物です。山門をくぐり右奥に法輪（ほうりん）をいただく三階建てで、二階を本堂、一階を会議室、客殿として利用しています。創建当時は本堂が別にあり、講堂として建てられました。

昔の造りらしく、窓上やドアノブに寺紋の九曜星（くようぼし）が彫ってあります。また、内装・家具とも当時のままのものが多く、歴史と伝統を今に伝える物として貴重な建築物です。しかし、同時に耐久性などにも限界があり、今後の対応を考える必要にせまられそうです。ともあれ、オリジナリティあふれる本堂はまさに梅窓院の顔なのです。

（編集部）

◆行◆事◆紹◆介◆

郡上（ぐじょう）踊りin青山

九月十五日(金)・十六日(土)
午後五時～午後九時
境内／観音堂にて
「郡上物産展」同時開催
※雨天の場合
青山小学校　体育館

秋彼岸会大法要／彼岸寄席

九月二十三日(土)
法要・十三時～　祖師堂
寄席・十四時半～　観音堂

平成十二年度 法然上人二十五霊場巡拝 団参

十月十日(火)～十二日(木)
淡路洲本・神戸方面
法然上人ゆかりの寺院（法然寺・十輪寺・如来寺・報恩講寺）の参拝を中心に、鳴門海峡などの観光地も訪ねる行程となっております。
※お問い合わせ
檀家管理部

仏教講座・念仏と法話の会

本年度も開講を予定しております。
※お問い合わせ
仏教研究所
電話番号
〇三（三四〇四）八四四七

青山文化村通信

今年の梅窓院の桜は例年になく美しく、その桜にさそわれ「春、日本の螺鈿（らでん）展」に連日200人以上のご来場をいただき、さぞや法然上人にも御慶び頂けたと主催者として胸をなでおろし、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。なお、祖師堂は、ピアノの発表会、絵画の展示会等にもご利用できますので、ご希望の方はご相談下さい。（光）

深みある美しさを漂わせる螺鈿の香炉箱。

「青山」梅窓院史

《お寺をもっと知ろう》

梅窓院本尊、阿弥陀如来立像。

青山、良い響きですね。東京にはいくつもの街の名前があります。銀座、新宿、浅草、成城……、数えたらきりがありません。そしてそのどれもが、それぞれの街ならではのイメージを持っています。皆さんも街の名前をきけば、その街並が思い浮かんでくるでしょう。

さて、では青山と言えば、どんなイメージでしょう。

この「青山」梅窓院史は皆さんの持っている青山のイメージをより膨らませる物語なのです。

地名の魅力

地名にはそれぞれ意味があって付けられたのは、皆さんもご存じでしょう。名前も同じです。その場所の地形や特徴、あるいはそこの特産品や商い品などが地名になることもあります。また伝説から命名されることも少なくないようです。

地名辞典のような本もでていますが、地名から色々なことがわかるのは楽しいものです。皆さんが今お住まいの地名がなぜ付いたのか、調べてみるのも面白そうですね。住んでいる場所の昔にタイムトラベル、時間旅行の気分が味わえるかもしれません。

梅窓院の院号、山号つて

皆さんのお寺、梅窓院のある青山。はたしてこの地名はどうやって付けられたのでしょう。それを調べるには、まず、お寺の歴史からひもといてみましょう。

梅窓院は正式な名前を長青山寶樹寺梅窓院といいます。お寺には山号、寺号、院号といって三つの種類の名前が組み合わさっていることが多いのです。

この梅窓院で説明すると、山号が長青山、寺号が寶樹寺、院号が梅窓院という具合になります。そしてこの長青山寶樹寺梅窓院が建立されたのは寛永二十年、江戸時代の最初の頃で、西暦一六四三年のことです。

広い当時の武家屋敷

江戸幕府を開いた徳川家康の家臣だった老中青山幸成公が逝去した時、青山公の下屋敷に、その側室を大檀越（わかりやく言うと応援者つまりスポンサー）として、一万三千余坪という広さで建立されたのです。

広いですね。現在の梅窓院の境内が約三千坪ですから、四倍以上の広さになります。しかもその広さが青山公の下屋敷の一部というのですから、一体当時の武家屋敷はどのくらいの広さだったのでしょう。

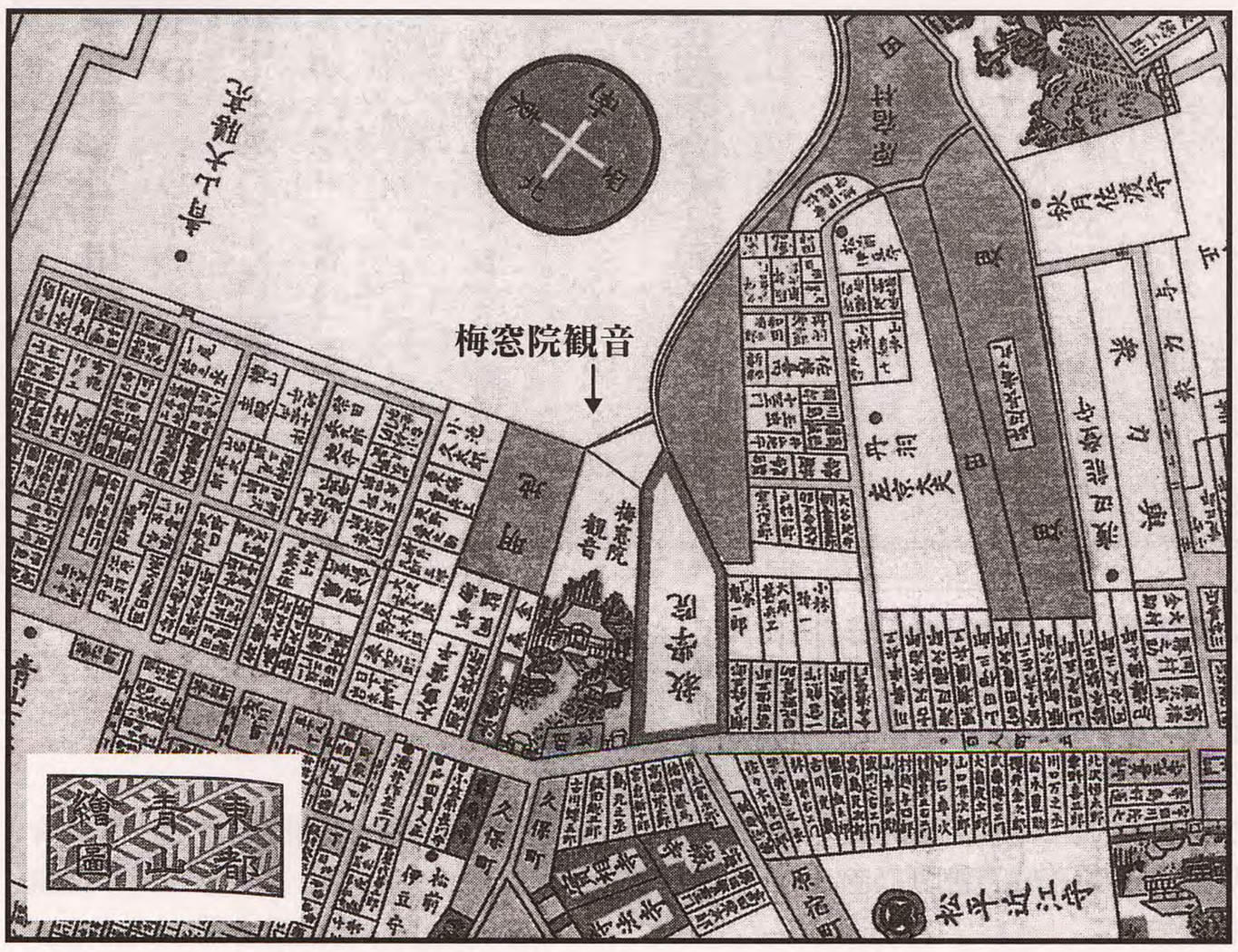
東都青山絵図（下）を見てみるとわかりますが、まあ、広いこと広いこと、今では想像もつかない広大な土地を所有していたのですね。

「えっ、少しわけてもらいたい」ですって。本当ですね。でも、それだけ青山公が幕府のために尽くしたという証で、たとえあなたがタイムトラベルした所で、簡単には分けてもらえないかもしれません。

さて、寺の名前は逝去された青山幸成公の戒名（正式には法号といいますが、このお話は次の機会に）、梅窓院殿香譽浄薫大禅定門の院号の梅窓院から、そして幸成の側室の戒名、長青院殿天譽利白大姉から長青をとり、山号にしたのです。それでは寺号の寶樹寺は一体どうした理由でつけられたのでしょうか。

それは次回に。

（真山剛・ルポライター）



嘉永六年（1859）の東都青山絵図（『港区史』）には梅窓院観音が記されている。

梅窓院の昔の話をご存知の方、伝え聞いていらっしゃる方、往時の資料をお持ちの方がいらっしゃいましたら、どんな小さなことでも結構ですから、ご一報いただければ幸いです。

【特集】

お盆（ぼん）とお施餓鬼（せがき）

家族
みんなで
お参り
しましょう

お盆のお知らせ

お盆
七月十三日(木)～十六日(日)
※盂蘭盆会法要
七月十三日(木)十時半より
※回向について
当日は、同封の回向用紙をご持参下さい。

お盆とは

毎年恒例のお盆の「民族大移動」は都市部で働き生活している人々が、ご先祖様の墓や、仏壇がある実家に帰り、ご先祖様と一緒に飲食の響応を受ける。これは生見魂といって、生きた「みたま」と対面し、食事を共にして互いの健康・長寿を祝うお盆の儀式として、今も残っている地方もあります。

餓鬼（がき）道に堕ちた目連尊者（もくれんそんじゃ）のお母さん

お盆は正確には「盂蘭盆（うらぼん）」と言います。これはインドの古い言葉の「ウランバナ」（逆さ吊り、倒懸（とうけん）の意）が語源になっています。お盆の由来は「仏教盂蘭盆経」という経典が元になっています。お釈迦様の十大弟子の一人で神通力（じんつうりき）第一の目連尊者が、亡き母が今頃どうしているかと思い、神通力を働かせると、意に反して、母は餓鬼道に堕ち、食物を食することも、水も飲することもできず痩せ衰えていたのでした。

そこで目連尊者は神通力を使って、母に食物を届けるのですが、その食物も口元で火になってしまい、母はもがき苦しむのでありました。

そこで、目連尊者はお釈迦様にお願いし、母を救う手立てを聞くのでした。

「母は私達子供にとって、とても優しい母でありましたのに、何故、このような地獄の攻め苦を受けるのでありましょうか。」と、問うた処、お釈迦様は、「確かに、お前の母は我が子供にはなんでも与え優しい母であったが、他人の子供には吝嗇（りんしょく）（物惜しみすること）で平等に分け与えるという精神を持たなかった。その為、餓鬼道に堕ちたのである。」と言われました。

法会と供養で母を救った目連尊者

目連尊者は、母を餓鬼道から救う方法はないものか、と懇願したところ、母親ができなかった「施し」の功徳によって、母は餓鬼道から抜け出すことができるであろう、とのお論（さと）しを頂きました。そこで、目連尊者は夏安居（げあんご）の修行に入っている僧が、その行が満つ、僧自恣（そうじし）の七月十五日の日に、その修行僧達に過去七代の父母の為にあらゆる種類の飲食物をもって施し、餓鬼道で苦しむ餓鬼の為に供養の法会を営んでもらい母を救ったのです。

因（ちなみ）に中国では、この七月十五日は中元に当たり、麦作地帯では収穫祭が行われています。その祭壇に、青く未熟な作物や果物をお供えし、家に帰ってきた子孫の祖霊に、豊作と秋の収穫の予祝（よしゅく）を祈る伝統儀式と、ご先祖様を天に導いてくださる僧への供養と、そして、ご先祖様に孝順を尽くすという儒教の考えが融合してお盆になったものと思われます。

日本のお盆の始まりは奈良以前から

我が国での最初のお盆会は日本書紀によりますと推古十四年（六〇六）でありますが、因に、浄土宗では江戸の初期頃より行われ、今日に伝えられています。

ご先祖様や有縁の人が苦しみを受けているならば、何とか救いたい、との願いから生まれた行事でありますが、七月十三日にご先祖様を我家に迎え、多くの供物を供え、響応供養して再び浄土へ送る行事は、一年に一度ご先祖様と親しく語らい孝を尽くす「みたま」まつりでもあります。

（藁谷）

お施餓鬼のお知らせ

大施餓鬼法要
七月二十一日(金)
午前十時半 別時念仏会(本堂)
午前十一時 半斎供養(本堂)
午前十一時半 お斎 (客殿)
午後十二時半 お説教(祖師堂)
午後一時半
大施餓鬼会法要(祖師堂)
大本山増上寺雅楽会会員

お施餓鬼の由来

お施餓鬼は、お釈迦様の弟子阿難尊者が、あと三日の命であると告げられお釈迦様のみ教えに従つて、一切の餓鬼に飲食を施して延命したとの故事に由来し、人々の延命長寿を願う目的で行われる行事です。

お子様連れでも安心

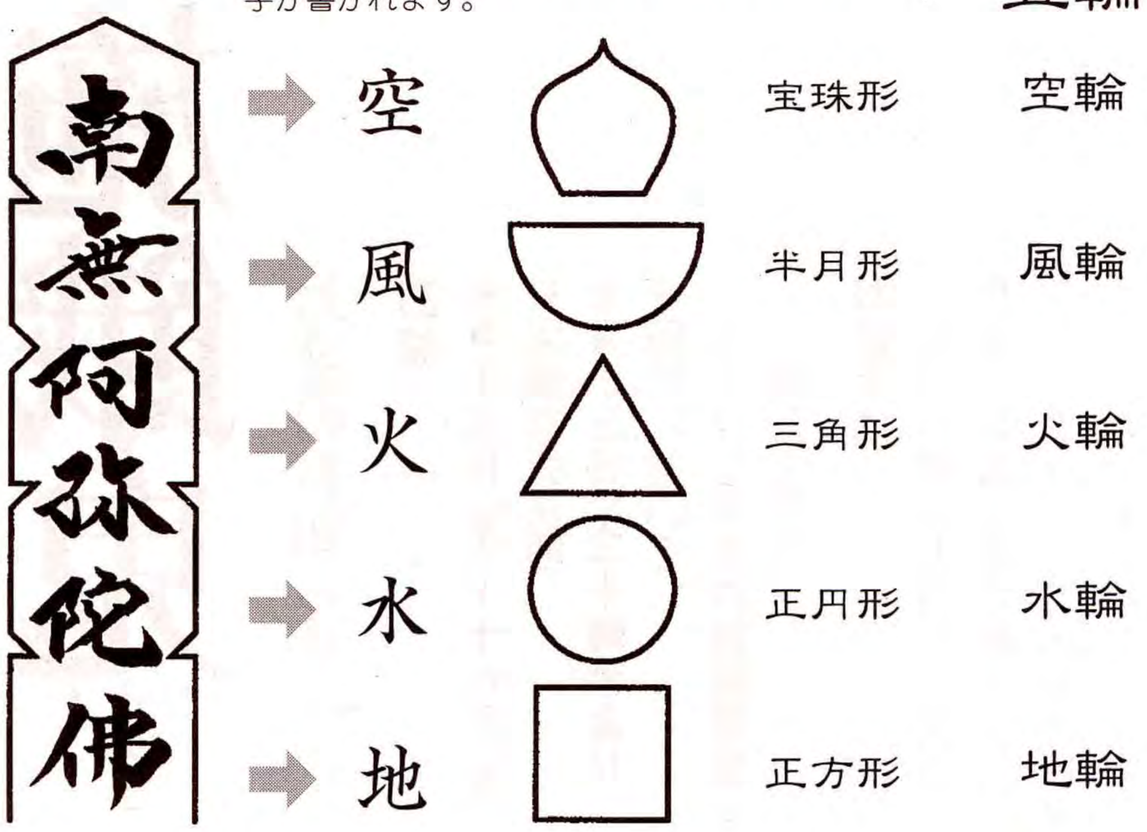
お施餓鬼会の当日は、お子様(幼児～小学生高学年まで)を対象に祖師堂の三階のホールにおいて十時～三時まで楽しい催をしております。尚、幼児については保母さんに保育をお願いしてございますので、安心してご家族でお参り下さい。

盆法要は祖師堂で行われる。写真は平成11年の法要。

お塔婆の話

お施餓鬼や年忌法要などの時に
お墓に建てる木の板を塔婆といいます。
皆さんも建てられたり見たことがあるとは思います。
一体どういうもので、何のために建てるのか。
お塔婆についてお話しましょう。

お塔婆の上部の形が、古代インドの宇宙観、五大思想を図形化したものです。宇宙のあらゆる物質は、空・風・火・水・地の五つの元素で構成されていて、上からの形がそれぞれを意味、南無阿弥陀仏や、梵字といわれる文字が書かれます。



「塔婆」の語源は梵語（ぼんご）で仏塔を意味する「ストゥーパ」の音写で、もとはお釈迦様の御遺骨を納めたものです。これは礼拝の対象として建てられた塔であり、タイや中国を経て、日本においては五輪塔となったのです。その形を簡略化したものが塔婆です。

塔婆の上部にある五輪塔を模した刻み目は、遥か仏教以前の古代インドの宇宙観（五大思想）を図形化したものと言われています。宇宙のあらゆる物質は、空・風・火・水・地の五つの元素で構成されており、従って生命も、臨終の際に「土に還る」と言われ、再びこれらの元素に還っていくと考えらています。

塔婆の裏面に記されている文字は、物質的な五大元素に対して精神を表しています。これを併せて「六大」となり、肉体と精神の両方を指します。

すなわち、塔婆を建てるということは、供養する故人と施主とが、先の宇宙観の中でその功徳を回向するものです。

つまり故人へ皆様のまごころを伝える手紙のようなものが、塔婆供養なのです。

ですから、塔婆はできるだけご自身の手でお建てください。ただ遠方など、さまざまな都合でお建て出来ない場合は、こちらで回向し、建てさせて頂きます。

（成田）

お施餓鬼・お塔婆申込

必ず同封のはがきにて六月三十日までにお届けいただきますよう、お願いします。塔婆回向料は、一本一万円とさせて頂いております。

お塔婆代等のお支払い

ご持参頂くか、同封の払込用紙をご利用頂くかは、ご都合によりご選択下さい。振込用紙は、すべての入金にご利用できますが、通信欄のところに、入金用途をお書き下さるようお願い致します。

なお、諸般の事情により同封の振込用紙（郵便局専用）は、銀行への振込みはできません。銀行への振込をご希望される方は、お寺まで直接お問い合わせ下さい。

銀行振込について

銀行からの振込は、手数料が自己負担となりますので、なるべく郵便振替をご利用下さい。郵便振替手数料は、お寺が負担致します。

（経理）

南無阿弥陀仏、六字の名号が書かれている梅窓院のお塔婆。

青山散歩道

築地 寿司清（すしせい） 青山店

創業明治二十二年「江戸前にぎり寿司一筋」築地の味を、青山で楽しめるお店、『築地寿司清』。一歩のれんをくぐれば、威勢の良い挨拶で出迎えてくれる。

この店一番の魅力は、こうした板前さん達の心意気。創業以来の「技」は勿論のことの「もてなしの心」もしっかりと受け継がれており、カウンター越しの会話も心地よい

さらに、大将自ら築地に足を運び、厳選して仕入れる新鮮なネタは絶品。一貫の値段が一〇〇円～三五〇円と安心価格なので、にぎりを心行くまで味わえる。

店内はカウンター二十席、テーブル十二席。六～八名用の個室もあるので、家族連れや、グループでも落ち着いて食事ができる。

青山という場所柄、来店するお客様の年代も幅広い。伝統のにぎりを気軽に楽しめる築地寿司清に、立ち寄ってみてはいかがでしょうか。（堀内）

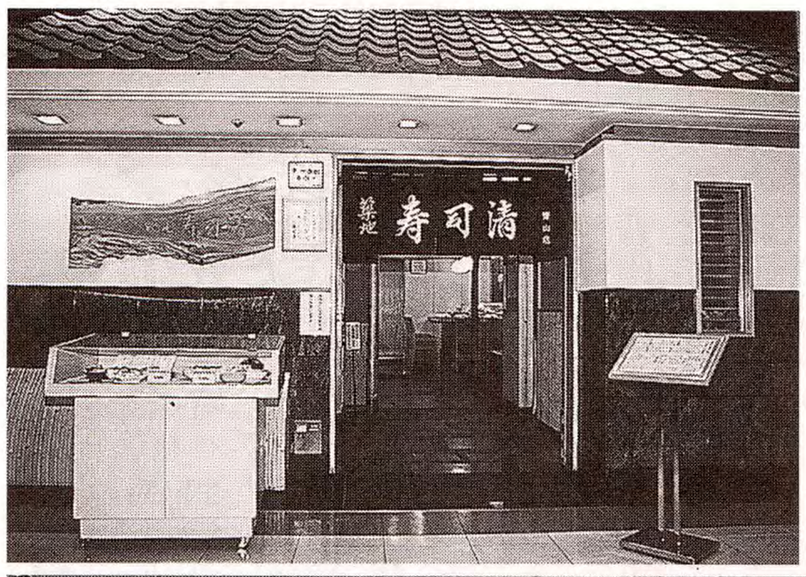
◆◆◆

［おすすめセットメニュー］

〝お昼の部〟
盛り合わせ 一〇〇〇円～

〝夜の部〟
特上寿司 二〇〇〇円
店長おまかせ 二五〇〇円～

場所　ベルコモンズ5F
（梅窓院より渋谷方面へ直進。
青山三丁目交差点で青山通りを渡った正面）
TEL　03-3475-8053
月～金11:30～14:00　17:00～22:30
土日月11:30～21:30
年中無休



お寺にお参りになられた時に寄ってみたいところ、入ってみたいお店などございましたら、お知らせ下さい。「青山散歩道」で紹介させていただきます。

行事報告

春彼岸法要・寄席

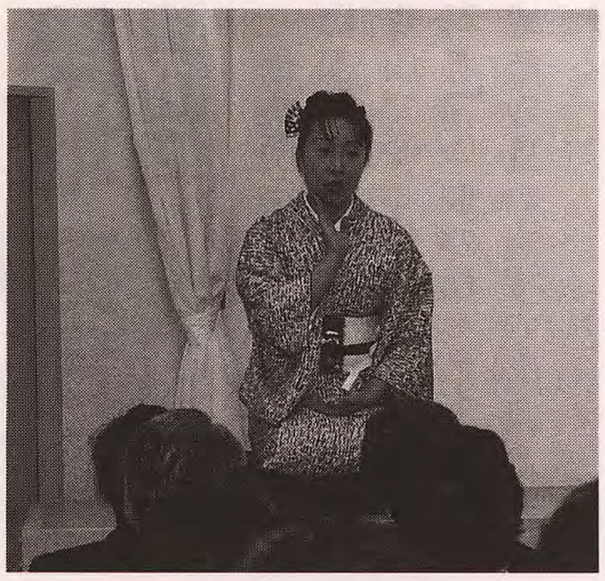
今回の春彼岸も、たくさんの人々にお寺へお参りに来ていただきまして、ありがとうございました。お彼岸の間は、世間一般ではご先祖様のお墓参りをするのが習慣となっておりますが、本来は、仏道修行の期間であります。

普段何事もなく無事に生活させて頂けるのも、ご先祖様のお護りがあってのことですので、感謝の念をもってお墓に手を合わせて頂けたら良いと思います。

法要では、百名を超える参詣者がある中、梅窓院の詠唱会の方々によってご詠歌を奉納し、僧俗が一体となる法要となりました。参詣者の中には詠唱を慕い、判り易くて良かったという声も頂き、詠唱をなさっている皆様も感慨ひとしおのうちに終わりました。

会場を観音堂に移し、春の彼岸寄席では、三遊亭歌ご・三遊亭歌る多師匠の落語に笑い、楽しい一時を過ごしました。なお、予想以上の来場者数により、立見の方、お帰りになった方などにご迷惑をおかけしましたことをお詫び致します。

（法務）



熱演される三遊亭歌る多師匠。

西安研修旅行報告

職員研修旅行

平成十二年二月二八日～三月四日

中国／西安・上海

研修旅行三日目の早朝、バスで西安郊外の香積寺（こうしゃくじ）へと向かった。そこは中国浄土教開祖善導（ぜんどう）大師ゆかりの寺である。

市内から約一時間。道中車窓から、様々な生活を見ることが出来た。ここはレンガ作りが有名で、あちこちに山積みにされていた。また、食事や仕事を外でする習慣があり、軒先で立ったまま食事をしたり、編物をしている姿が見られた。

香積寺は、二十年程前まで大塔だけだったそうだが、日本の浄土宗関係からの寄付により、現在、ちょっとした村の様になっていた。ここで三十名程の僧侶が、自給自足の生活を行っている。

私達は香積寺住職の案内により大塔に上った。崩れかかって柵もない大塔に上るには、かなり勇気を要するものであったが、頂上からの三六〇度、地平線まで見渡せる景色は格別であった。

様々な寺院を廻った研修を終えて、歴史ある国に行くことはとても大切だと思った。その国々独自の生活を見て感じる事も、大変勉強になった。最後に何はともあれ無事に帰国できたことに感謝。

香積寺大塔前での記念撮影。

檀信徒の皆さまへ

梅窓院詠唱会の講員募集

詠唱会はご詠歌、ご和讃、舞を研究する念仏同信の会です。浄土宗では、法然上人が草庵を結んだ京都東山吉水の地名から「吉水講の講員」と呼ばれ、全国に五万人の講員がおります。ここ梅窓院では、平成十年に『選択本願念仏集』奉戴八〇〇年を記念して発足し、泉博美先生の指導のもと現在十七名の講員が研鑽に励んで、お施餓鬼や彼岸法要でのご詠歌、ご和讃を発表しています。更なる飛躍を求め、広く講員を募集していますのでご興味のある方は梅窓院までご連絡ください。

※お問い合せ　詠唱会　泉

「青山俳壇」投句募集

この『青山』では皆様からの投句を募集します。選者は『俳句朝日』の顧問大崎紀夫さんです。今回は夏を詠んだ俳句とし、七月十五日締め切りで、九月発行予定の第二号にて発表させていただきます。応募はハガキ一枚に一句とし、住所、電話番号、氏名、年齢を忘れずにお書きください。応募をお待ちしております。

※港区南青山二-二六-三八
梅窓院
「青山俳壇」投句募集係まで

★大本山光明寺開山堂建築記念屋根銅版奉納に早々にご入金いただきましたこと、厚く御礼申し上げます。

青山文化村通信

梅窓院では檀信徒の皆さまとのコミュニケーションの場として、積極的に行事、講座などを催していますので、ぜひ足をお運び下さい。また、皆さまの貴重な生の声を直接聞かせていただき、より良いお寺を目指していきたいと思いますので、お寺に対するご意見、ご要望などございましたら、お参りにの際にでもお気軽にお声をおかけ下さい。

また、本紙『青山』発行記念として『お浄土のお経　観無量寿経』を皆さまに郵送いたします。どうぞお読み下さい。